
企業詳細信用調査報告書

SAMPLE



株式会社 日本能率協会総合研究所

2007年**月**日

報告概要

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 【信用格付】 | B |
| 【企業名称】 | 湖北省***有限公司 |
| 【所在地】 | 湖北省安華市*** |
| 【郵便番号】 | XX60XX |
| 【TEL番号】 | 0XXX-XX100XX |
| 【FAX番号】 | 0XXX-XX115XX |
| 【設立年月日】 | 1991年12月25日 |
| 【企業形態】 | 有限責任会社 |
| 【上場市場】 | 無し |
| 【業界コード】 | 2823、Cellulosic manmade fibers |
| 【業界分類】 | 2823、アクリル繊維製造 |
| 【資本金】 | 300,000 千元 |
| 【主要業務収入】 | 484,000 千元 (2002 年) |
| 【資産総額】 | 1,289,168 千元 (2002 年 12 月 31 日) |
| 【株主持分】 | 782,690,000 元 (2002 年 12 月 31 日) |
| 【従業員総数】 | 900 人 |
| 【事業内容】 | コットンタイプ・ウールタイプアクリル繊維およびアクリル繊維スライバーの製造 |
| 【外部評判】 | 普通 |
| 【発展状況】 | 比較的安定している |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【 総 述 】 当該会社は紡績原材料の生産メーカーで、主にアクセル繊維を製造し、製品は中級ウールタイプアクセル繊維を主とする。現在の年間生産高は約 3.6 万トンである。経営の面において、会社設立当初、国からの資金が投下されなく、会社は借入の形で大部分の建設資金を調達したため、財務費用が大幅に増加し、発展資金が不足していた。この原因で当該会社は現在でも赤字経営の状態にある。ここ 3 年間の状況からみれば、資金難問題の解決につれ、会社の経営は良い方向に向かっている。現在の問題としては生産コストが高い、海外での事業開拓能力が有限であることがあげられる。

基本情報

【基本データ】

【 企業名称 】 湖北省***有限公司
【 英語名称 】 HUBEI ***** CO., LTD.
【 所在地 】 湖北省安華市***
【 英語表記 】 ***, ***** District, *****, Hubei
【 郵便番号 】 XX60XX
【 TEL 番号 】 0XXX-XX100XX
【 FAX 番号 】 0XXX-XX115XX
【 U R L 】 www. ***** .com.cn
【 E - m a i l 】 ---

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【登録データ】

| | |
|------------|---|
| 【工商登録 No.】 | XX0XX01XX13XX |
| 【登録機関】 | 湖北省***市工商行政管理局 |
| 【企業名称】 | 湖北省***有限公司 |
| 【英語名称】 | HUBEI *** ** CO.,LTD |
| 【登録住所】 | 湖北省***市*** |
| 【成立年月日】 | 1991年12月25日 |
| 【企業形態】 | 有限責任会社 |
| 【資本金】 | 300,000千元 |
| 【法定代表人】 | 丁XX |
| 【経営範囲】 | 主要業務：アクリル繊維、化学繊維スライバー、機械電気設備の製造・補修・据付。 兼営業務：自動車運輸。アクリル繊維と衣料品の輸出。 機械設備や部品、原材料の輸入。自動車やバイクの修理。 |
| 【営業許可期限】 | 長期 |

【その他の情報】

| | |
|----------|--------------------------------|
| 【業界コード】 | 2823、Cellulosic manmade fibers |
| 【業界分類】 | 2823、アクリル繊維製造業 |
| 【業界内規模】 | 大型 |
| 【対外貿易権】 | 有り |
| 【取得年】 | 1995年 |
| 【審査認可機関】 | 中華人民共和国商務部 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【資格】

| 名称および種類 | 取得年月 | 発行機関 |
|----------|----------|---------------|
| ISO-9002 | 1999年11月 | 北京***国際質量認証中心 |

【顧問機構】

| 名称 | 住所 |
|--------------|-----------------------------|
| 湖北安華***法律事務所 | 湖北省安華市**路**号雲達商務中心 B-11 室 |
| 湖北省***会計師事務所 | 湖北省武漢市**路**号金苑大廈 A 座 1002 室 |

分支機構および傘下企業

【支店】

| 名称 | 所在地 | 電話 | 責任者 |
|-----------------|-------------------|------------------|-----|
| 湖北省***有限公司北京事務所 | 北京市朝陽区力通南路甲 2 号 | 010-XX5677 77 | 楊** |
| 湖北省***有限公司上海事務所 | 上海市普陀区宜川北路 342 号 | 021-XX6855 55 | 李** |
| 湖北省***有限公司広州事務所 | 広州市海珠区沿江西路 1220 号 | 020-XX4522 22 | 夏** |

【子会社】

| 名称 | 所在地 | 電話 | 責任者 |
|-----------|-----------|------------------|-----|
| 安華***有限公司 | 湖北省安華市関水路 | 0XXX-XX696 32 | 関** |

【株式出資企業】

(金額単位：千元)

| 企業名称 | 投資金額 | 投資比率 | 登録年月 |
|-------------|-------|------|------------|
| 安華***服装有限公司 | 5,000 | 15% | 2000年3月12日 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

資本構成および出資者情況

【資本構成】

(金額単位: 千元)

| 出資者名 | 投資金額 | 投資比率 | 払込率 | 投資方式 |
|--------------|---------|------|------|------|
| 中国***管理公司 | 240,000 | 80% | 100% | 貨幣資金 |
| 中国***紡績進出口公司 | 60,000 | 20% | 100% | 貨幣資金 |
| 合 計 | 300,000 | 100% | 100% | |

『備考』 2001年に当該会社は債務の株式転換を行い、このことで中国華融資産管理公司是当該会社の株主となった。そして、中国華融資産管理公司は一部の株式を中国***紡績進出口会社に譲渡し、現在の株式構成となった。

【出資者情況】

出資者(1)

『企業名称』 中国***管理公司
 『所在地』 北京市西城区***
 『郵便番号』 100045
 『TEL番号』 010-63409999
 『FAX番号』 010-63477644
 『設立年月日』 199*年
 『企業形態』 国有独資有限責任会社
 『資本金』 10,000,000 千元 (以下の財務データは 2001 年 12 月 31 日現在のものである)
 『主要業務収入』 2,045,000 千元
 『資産総額』 179,588,000 千元
 『株主持分』 243,195,000 千元
 『従業員総数』 ***人
 『事業内容』 中国工商银行より剥離された不良資産の買付と経営

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

| | |
|--------|---|
| 『外部評判』 | 良好 |
| 『発展状況』 | 安定している |
| 『総述』 | 中国***管理公司是財政部に属する、専門的に中国工商银行の不良債権を取り扱う資産管理会社の1つである。不良債権処理のほか、投資、金融コンサルティングなどの業務を取り扱う。 |

出資者(2)

| | |
|----------|--|
| 『企業名称』 | 中国***紡績進出口公司 |
| 『所在地』 | 北京市東城区**路**号 |
| 『郵便番号』 | 100013 |
| 『TEL番号』 | 010 6423**** |
| 『FAX番号』 | 010 6423**** |
| 『設立年月日』 | 1986年 |
| 『企業形態』 | 全人民所有制 |
| 『資本金』 | 20,000千元(以下の財務データは2001年12月31日現在のものである) |
| 『主要業務収入』 | 226,520千元 |
| 『資産総額』 | 201,200千元 |
| 『株主持分』 | 28,020千元 |
| 『従業員総数』 | ***人 |
| 『事業内容』 | 繊維製品、繊維原材料、衣料品の輸出入 |
| 『外部評判』 | 良好 |
| 『発展状況』 | 安定している |
| 『総述』 | 中国***紡績進出口公司是以前、国家紡績工業部に属する会社である。現在、繊維および関連製品の輸出入業務を行い、主に中国製の衣服、靴、帽子などを輸出し、紡績原材料を輸入している。同時に国内貿易、物流および業界内の投資などの業務も取り扱う。 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【資本変動情況】

(金額単位:千元)

| 変動期日 | 資本金 | 貨幣別 | 証明機関 |
|------|-----|-----|------|
| | | | |

『備考』 当該公司是設立以降、登録資本の変動は無い。

主要経営者情況

【取締役と主要経営者】

| 姓名 | 役職 | 性別 | 生年月日 | 婚姻状況 | 学歴 |
|------|--------|----|---------|------|-----|
| 丁 XX | 總經理 | 男 | 1942年6月 | 既婚 | 短大卒 |
| 劉 XX | 副總經理 | 男 | 1959年4月 | 既婚 | 短大卒 |
| 王 XX | 副總經理 | 男 | 1960年3月 | 既婚 | 研究生 |
| 齊 XX | 党委員会書記 | 男 | 1965年8月 | 既婚 | 大卒 |

【主要責任者略歴】

『氏名』 丁 XX

『役職』 總經理

『出身校』 XX省無線電專科学学校

『職責』 企業發展戰略の計画および実施

『略歴』 1959年～1964年、XX省無線電專科学学校在学
 1964年～1969年、XX省九站化纖廠メーター職場責任者
 1969年～1984年、XX化纖廠職場責任者
 1984年～1987年、XX省XX化纖廠廠長
 1987年～1988年、XX省XX市紡績局副局長
 1988年～1998年、当該会社の副廠長（1991年まで湖北省安華市腈綸廠工事指揮者）
 1998年～2001年、当該会社廠長
 2001年、当該会社の總經理となり、現在に至る。

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法律的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

| | |
|--------|-------|
| 『兼任職務』 | 無し |
| 『趣味』 | 観光、水泳 |
| 『業界経験』 | 10年以上 |
| 『経営経験』 | 3年以上 |
| 『得意分野』 | 管理 |
| 『就任経緯』 | 創業者 |

| | | | | |
|--------|----------|----------|--------|----------|
| 『総合評価』 | カリスマ性に富む | 寛容性がある | 人望がある | 人情味に溢れる |
| | 楽観的である | 責任感が強い | 独創性に富む | 先見性がある |
| | 人脈が広い | 政府の背景を持つ | 保守的である | 慎重である |
| | 独断的である | 頑固である | 社交性に富む | 管理能力が高い |
| | 技術レベルが高い | 計画力がある | 決断力に富む | 金銭管理に厳しい |

| | |
|-------|----|
| 『賞 罰』 | 無し |
|-------|----|

従業員状況

| | |
|----------|-------|
| 【常勤従業員】 | 900人 |
| その中：管理人員 | 100人 |
| 技術人員 | 140人 |
| 販売人員 | --- |
| 【臨時雇用員】 | 0人 |
| 【定年退職者】 | 100人 |
| 【従業員の質】 | 比較的高い |
| 【業務効率】 | 普通 |
| 【採用計画】 | 無し |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

生産・経営施設状況

【オフィス】

| | |
|-----------|--|
| 『住所』 | 湖北省安華市***** |
| 『棟数』 | 2棟 |
| 『建築年代』 | 1990年代 |
| 『敷地面積』 | 3,000 m ² |
| 『建築面積』 | 7,000 m ² |
| 『所有形態』 | 自社所有 |
| 『建築構造』 | 煉瓦コンクリート 鉄骨 |
| 『階数』 | 3、4階 |
| 『外観』 | 比較的良い |
| 『内装』 | 比較的良い |
| 『地理的位置』 | 比較的良い |
| 『抵当の有無』 | 無し |
| 『保険申請の有無』 | 有り |
| 『地理的環境』 | 当該会社の所在地は、国道 102 のそばにある湖北省安華市*****である。安華市は XX 市まで約 300 km。当該会社は安華駅まで約 10 km、安華空港（国際便の離着陸はない）と安華港まで 4 km、XX 高速道路のインターまで 5 km 離れる。 |
| 『仕事の状態』 | 仕事意欲は高い |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【工場】

| | | |
|-----------|-------------|----|
| 『住所』 | 湖北省安華市***** | |
| 『棟数』 | 約 10 棟 | |
| 『建築年代』 | 1990 年代 | |
| 『敷地面積』 | 40 万㎡ | |
| 『建築面積』 | 8 万㎡ | |
| 『所有形態』 | 自社所有 | |
| 『建築構造』 | 煉瓦コンクリート | 鉄骨 |
| 『階数』 | 2~7 階 | |
| 『外観』 | 比較的良い | |
| 『内装』 | 比較的良い | |
| 『地理的位置』 | 工業団地 | |
| 『抵当の有無』 | 無し | |
| 『保険申請の有無』 | 有り | |
| 『地理的環境』 | *【オフィス】欄参照 | |
| 『仕事の状態』 | 仕事意欲は高い | |

【主要生産設備/事務設備】

| 名称 | 数量 | 生産地 |
|---------|-------|-----|
| 絹糸生産ライン | 8 本 | 中国 |
| 発電機ユニット | 2 セット | 中国 |
| 重合ライン | 2 本 | 中国 |

| | |
|-----------|---|
| 『生産能力』 | アクリル繊維 4 万トン/年 |
| 『設備稼働率』 | 80% |
| 『抵当の有無』 | 無し |
| 『保険申請の有無』 | 有り |
| 『設備状況』 | 大部分の設備は国産品で、自動化レベルは比較的高い。生産設備のほか、当該会社は一本の専用鉄道と一つの専用埠頭を有し、原材料の運輸と製品の販売に使用されている。埠頭の停泊能力は 5,000 トンである。 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

商品の購入・販売および支払い方式

【原料、商品の仕入】

| 地域 | 品目 | 地区 | サプライヤー |
|----|----------------|------------|------------------------|
| 国内 | アクリロニトリル | 上海 | 上海高橋****有限公司など |
| 国内 | アクリル酸メチルなど化学原料 | 北京、上海 | 北京****、上海高橋*****有限公司など |
| 海外 | アクリロニトリル | アメリカ、日本、韓国 | アメリカのBP社、韓国のABC商事株式会社 |

【支払条件】

| 地域 | 方式・期限 | 比率 |
|----|---------------|------|
| 国内 | 小切手、為替手形、60日内 | 100% |
| 海外 | L/C、at sight | 90% |
| 海外 | L/C、中長期 | 10% |

【支払状況】

| 品目 | 支払状況 | | |
|----------------|---------|--------------|--------------|
| アクリロニトリル | 期限内：99% | 遅延(1年以内)：1% | 遅延(1年以上)：0% |
| アクリル酸メチルなど化学原料 | 期限内：60% | 遅延(1年以内)：20% | 遅延(1年以上)：20% |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【主要得意先】

| 地域 | 品目 | 地区 | ユーザー |
|----|--------|-------------------|--|
| 国内 | アクリル繊維 | 江蘇省、湖北省、 浙江省など | 江蘇太倉金馬集団、 江蘇常熟聚沙集団公司等 |
| 海外 | 毛布 | ドイツ、アメリカ、 カナダ | アメリカの Ela-Celeron International Trade Co., Ltd. |

【回収条件】

| 地域 | 方式・期限 | 比率 |
|----|------------------|-----|
| 国内 | 小切手、為替手形、60 日以内 | 90% |
| 国内 | 現金、at sight | 10% |
| 海外 | L/C、at sight | 80% |
| 海外 | T/T、D/P、at sight | 20% |

【回収状況】

| 品目 | 回収状況 | | |
|--------|------|----------|----------|
| | 期限内 | 遅延(1年以内) | 遅延(1年以上) |
| アクリル繊維 | 98% | 2% | 0% |
| 毛布 | 100% | 0% | 0% |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

経営・財務状況

【経営状況】

(金額単位：千元)

| 年度 | 売上高 | 増加率 | 利益総額 | 増加率 |
|-------|---------|--------|---------|--------|
| 2002年 | 484,000 | 13.41% | -8,193 | 10.21% |
| 2001年 | 426,780 | 14.11% | -9,125 | 77.36% |
| 2000年 | 374,000 | *** | -40,297 | *** |

【2002年営業状況】

(金額単位：千元)

| 品目 | 国内販売 | 比率% | 輸出 | 比率% | 合計 | 比率% |
|--------|---------|-----|--------|-----|---------|-----|
| アクリル繊維 | 495,800 | 100 | 0 | 0 | 495,800 | 95 |
| 毛布 | 0 | 0 | 24,200 | 100 | 24,200 | 5 |
| 合計 | 495,800 | 95 | 24,200 | 5 | 484,000 | 100 |

【過去の財務状況】

(金額単位：千元)

| 科目 | 2002年12月31日 | 2001年12月31日 | 2000年12月31日 |
|---------|-------------|-------------|-------------|
| 払込資本 | 300,000 | 300,000 | 523,801 |
| 資本剰余金 | 252,140 | 194,706 | 2,294 |
| 利益剰余金 | 10,154 | 16,347 | 65,900 |
| 未処分利益 | -25,540 | -19,385 | -155,405 |
| 所有者持分合計 | 31,879 | 1,663 | 36,590 |
| 短期借入金 | 129,840 | 102,570 | 103,260 |
| 長期借入金 | 254,216 | 209,876 | 182,314 |
| 借入金総額 | 384,056 | 312,446 | 285,574 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【貸借対照表】

(金額単位:千元)

| 資産の部 | 2002年12月31日 | 2001年12月31日 | 2000年12月31日 |
|--------------------|------------------|------------------|----------------|
| 貨幣資金 | 9,318 | 8,220 | 8,560 |
| 受取手形 | 358 | 256 | 332 |
| 売掛金 | 84,161 | 90,163 | 78,523 |
| その他売掛金 | 18,967 | 10,885 | 15,228 |
| 貸倒準備金 | 250 | 305 | 281 |
| 売掛金純額 | 102,878 | 100,743 | 93,470 |
| 前払金額 | 0 | 233 | 0 |
| 棚卸資産 | 78,523 | 72,550 | 69,534 |
| 棚卸資産評価引当金 | 4,711 | 4,265 | 4,011 |
| 棚卸資産純額 | 73,812 | 68,285 | 65,523 |
| その他流動資産 | 44,388 | 37,805 | 35,797 |
| 流動資産合計 | 230,754 | 215,542 | 203,682 |
| 長期投資 | 81,468 | 81,468 | 43,256 |
| 固定資産原価 | 1,004,063 | 985,063 | 925,326 |
| 減価償却累計 | 378,360 | 269,360 | 251,036 |
| 固定資産簿価 | 625,703 | 715,703 | 674,290 |
| 建設資材 | 89,973 | 100,560 | 25,890 |
| 建設仮勘定 | 235,578 | 156,788 | 0 |
| その他固定資産 | 0 | 0 | 0 |
| 固定資産合計 | 1,051,254 | 973,051 | 700,180 |
| 無形資産純額 | 15,880 | 17,120 | 5,670 |
| 繰延資産 | 9,812 | 7,235 | 2,246 |
| 無形資産と繰延資産合計 | 25,692 | 24,355 | 7,916 |
| その他資産 | 0 | 80,863 | 0 |
| 資産総額 | 1,289,168 | 1,078,269 | 982,034 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

| 負債の部 | 2002年12月31日 | 2001年12月31日 | 2000年12月31日 |
|---------------------|------------------|------------------|----------------|
| 短期借入金 | 129,840 | 102,570 | 103,260 |
| 買掛金 | 131,554 | 152,878 | 161,565 |
| 支払手形 | 0 | 204 | 1,588 |
| 前受金 | 9,320 | 5,067 | 246 |
| 未払配当金 | 3,516 | 5,876 | 0 |
| 未払税金 | 1,022 | 2,065 | 1,113 |
| その他未払金 | 1,236 | 955 | 1,078 |
| 一年内期限到来長期負債 | 25,660 | 0 | 0 |
| その他流動負債 | 37,012 | 18,005 | 1,010 |
| 流動負債合計 | 339,160 | 287,620 | 269,860 |
| | | | |
| 長期負債合計 | 381,375 | 297,318 | 276,240 |
| 長期借入金 | 254,216 | 209,876 | 182,314 |
| 住宅回転金 | 21,870 | 42,855 | 37,980 |
| その他長期負債 | 105,289 | 44,587 | 55,946 |
| | | | |
| 繰延税金貸方 | 0 | 0 | 0 |
| | | | |
| 負債合計 | 720,535 | 584,938 | 546,100 |
| 資本の部 | | | |
| 少数株主持分 | 0 | 0 | 0 |
| | | | |
| 払込資本金 | 300,000 | 300,000 | 523,801 |
| 資本剰余金 | 252,140 | 194,706 | 2,294 |
| 利益剰余金 | 10,154 | 16,347 | 65,900 |
| 未処分利益 | -25,540 | -19,385 | -155,405 |
| その他 | 31,879 | 1663 | 36,590 |
| 所有者持分合計 | 568,633 | 493,331 | 782,690 |
| 負債および所有者持分総額 | 1,289,168 | 1,078,269 | 982,034 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【損益計算表】

(金額単位:千元)

| 科 目 | 2002 年 | 2001 年 | 2000 年 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 主要営業収入 | 484,000 | 426,780 | 374,000 |
| 主要営業原価 | 457,970 | 404,550 | 362,940 |
| 主要営業税金および附加 | 5,042 | 4,172 | 11,060 |
| その他支出 | 0 | 0 | 0 |
| 主要営業利益 | 20,988 | 18,058 | 11,060 |
| その他営業利益 | 1,058 | 1,120 | 886 |
| 棚卸資産評価損失額 | 23 | 16 | 0 |
| 棚卸資産評価引当金 | 0 | 0 | 0 |
| 営業費用 | 3,444 | 3,946 | 3,086 |
| 管理費用 | 21,672 | 22,488 | 20,614 |
| 財務費用 | 36,151 | 29,262 | 27,321 |
| その他費用 | 0 | 0 | 0 |
| 営業利益 | -39,244 | -36,534 | -40,487 |
| 投資収益 | 21,341 | 22,081 | 0 |
| 補助金収入 | 8,242 | 4,120 | 0 |
| 営業外収益 | 1,804 | 1,208 | 804 |
| 営業外支出 | 336 | 0 | 254 |
| その他収入 | 0 | 0 | 0 |
| 利益総額 | -8,193 | -9,125 | -40,297 |
| 所得税 | 0 | 0 | 0 |
| 税引後利益 | -8,193 | -9,125 | -40,297 |
| 少数株主損益 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 252 | 0 | 0 |
| 純利益 | -7,941 | -9,125 | -40,297 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【財務比率】

| | 2002年 | 2001年 | 2000年 |
|--------------|--------|-------|-------|
| 返済能力 | | | |
| 資産負債率(%) | 55.89 | 54.24 | 20.29 |
| 流動比率(%) | 68.03 | 74.93 | 75.47 |
| 当座比率(%) | 46.27 | 51.19 | 51.19 |
| 収益能力 | | | |
| 主要業務利益率(%) | 4.33 | 4.23 | 2.95 |
| 純利益率(%) | --- | --- | --- |
| 純資産収益率(%) | --- | --- | --- |
| 総資産収益率(%) | --- | --- | --- |
| コスト費用利益率(%) | --- | --- | --- |
| 経営能力 | | | |
| 在庫回転回数 | 6.20 | 5.92 | 5.53 |
| 在庫回転日数 | 58.82 | 61.60 | 65.89 |
| 売掛金回転回数 | 5.75 | 4.74 | 4.76 |
| 売掛金回転日数 | 63.46 | 76.85 | 76.63 |
| 流動資産回転回数 | 2.09 | 1.98 | 1.83 |
| 総資産回転回数 | --- | --- | --- |
| 成長能力 | | | |
| 売上高成長率(%) | 13.40 | 14.11 | --- |
| 利益成長率(%) | --- | --- | --- |
| 資本価値維持増加率(%) | 115.26 | 63.03 | --- |
| 資産増加率(%) | 19.55 | 9.79 | --- |

『財務データ出所』 政府部門

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

【財務指標分析】

(業界コード：2823 アクリル繊維の製造)

| 指標(2002年) | 業界指標 | 対象会社 |
|--------------|------|--------|
| 返済能力 | | |
| 資産負債率(%) | 71.7 | 55.89 |
| 流動比率(%) | 47.1 | 46.27 |
| 収益能力 | | |
| 主要業務利益率(%) | 7.9 | 4.33 |
| 純資産収益率(%) | -0.9 | --- |
| 経営能力 | | |
| 在庫回転回数 | 7.2 | 6.20 |
| 売掛金回転回数 | 6.8 | 5.75 |
| 流動資産回転回数 | 1.8 | 2.09 |
| 総資産回転回数 | 0.7 | --- |
| 成長能力 | | |
| 売上高成長率(%) | 6.6 | 13.40 |
| 資本価値維持増加率(%) | 98.3 | 115.26 |
| 資産増加率(%) | 1.2 | 19.55 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

| | |
|--------|---|
| 『財務説明』 | <ol style="list-style-type: none"> 1、2001年、当該会社は株式会社への移行を開始したばかりで、財務処理において株式転換の金額を一時的に資本剰余金に記入した。 2、「その他売掛金」には、長期に渡り従業員のために立て替えた医薬費用、家賃および関連企業への貸付などを含む。 3、「税引後利益」中の「その他」科目は「本年度未確認の投資損失」の数字である。 4、「その他業務利益」は、廃棄材料の販売によるものである。2002年の数字には米国の会社への土地使用権譲渡による収入も含まれている。 5、その他、当該会社は国の科学研究プロジェクトを担当しており、受取った1,250千円の研究経費は「交付金収益」に記入されている。 |
|--------|---|

【財務分析】

| |
|---|
| <p>2002年の財務データによる分析は下記の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、財務の安全性は比較的良いが、短期債務返済能力は比較的低く、業界平均レベルを下回っている。多くの長・短期債務を抱いているため、返済の圧力は比較的大きい。 2、運営能力は非常に高く、在庫回転は非常に速いが、売掛金回収は普通で、業界レベルをやや下回っている。注意すべきなのは、当該会社の売掛金回転速度は普通であること。これについて、弊社の研究スタッフは、掛売管理が緩いため、資金の回転が遅くなり、また多くの売掛金が売掛金の回収率を低下させたと指摘している。 3、まだ赤字経営しているのは、生産コストと費用が高いことがある。財務の具体的内容を見ると、投資収益が無ければ、当該会社は依然としてひどい赤字経営の状態にあるであろう。高い生産コストの削減は当該会社の急務の一つとなっている。 |
|---|

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

サプライヤーによる評価

| | |
|-----------|---------------------|
| 『 企業名称 』 | 北京東方**** |
| 『 種 類 』 | 原材料 |
| 『 品 目 』 | アクリル酸 |
| 『 取引開始年 』 | 1993年 |
| 『 与信限度額 』 | 1,000千元 |
| 『 残 高 』 | --- |
| 『 支払期限 』 | 60日 |
| 『 評 価 』 | 普通で、時々支払を遅延することがある。 |

| | |
|-----------|------------------------|
| 『 企業名称 』 | 上海高橋*****有限公司 |
| 『 種 類 』 | 原材料 |
| 『 品 目 』 | アクリロニトリル、アクリル酸 |
| 『 取引開始年 』 | 1994年 |
| 『 与信限度額 』 | 2,000千元 |
| 『 残 高 』 | --- |
| 『 支払期限 』 | 60日 |
| 『 評 価 』 | 比較的良い。偶には支払を遅延することがある。 |

| | |
|-----------|---|
| 『 企業名称 』 | 武漢****紡績原料供給公司 |
| 『 種 類 』 | 原材料 |
| 『 品 目 』 | アクリル酸 |
| 『 取引開始年 』 | 2001年 |
| 『 与信限度額 』 | 300千元 |
| 『 残 高 』 | --- |
| 『 支払期限 』 | 60日 |
| 『 評 価 』 | 今まで支払を遅延したことは無い。取引してからまた時間が短いため、これ以外に評価していない。 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

取引銀行

| | |
|----------|--------------------|
| 『銀行名称』 | 中国工商银行安華市分行 XX 分理处 |
| 『住所』 | 安華市 XXXX |
| 『TEL 番号』 | 0XXX-XXXXXXXX |
| 『口座開設年月』 | 1996 年 |
| 『信用格付』 | 無し |
| 『評価年』 | 無し |
| 『取引状況』 | 正常 |

| | |
|----------|-------|
| 『平均預金桁額』 | 7 桁中位 |
|----------|-------|

【借入状況】

| | |
|----------|--------------|
| 『抵当設定物件』 | 無し |
| 『借入保証物件』 | 無し |
| 『担保保証企業』 | 安華 XXXXX 廠など |
| 『元金返済状況』 | 普通 |
| 『利子返済状況』 | 普通 |
| 『返済遅延理由』 | 経営状態が良くないため |

訴訟記録

| 年月 | 出来事 |
|-------------|---|
| 2000 年 10 月 | 湖北****有限公司から借入れた 106 万元の返済を約一年延滞したため、湖北****有限公司は地元裁判所で当該会社を訴えた。その後、両社は和解した。 |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

総合評価

【設立背景】

1980年代、中国紡績化繊原料の生産では、主に湿式プロセスを取り入れられてアクリル繊維を造る。湿式プロセスにより製造されたアクリル繊維は、ウール繊維製品に適合しない。国内紡績原料の品種の豊富化、繊維製品品質の向上の目的で、元の紡績工業部（現在の国家紡績工業局）はアメリカのデュポン社から15万トンのアクリル繊維生産ラインの導入を計画した。同ラインはDMFを溶剤とする乾式プロセスが採用されている。同計画は、中国の第7次5ヵ年計画（1991年～1995年）に組み入れられ、紡績工業の重点プロジェクトと決定された。

1980年代末期、同プロジェクトが国家発展計画委員会の計画に組み入れられた後、紡績工業部は相次いで中国の遼寧XX、広東XX、山東XX、浙江XX、湖北安華で、想定生産規模3～4万トン、乾式プロセスによるアクリル繊維生産メーカー5社を設立した。湖北省安華腈綸廠（当該会社の前身）はその中の1社となる。

1988年、紡績工業部から派遣されたメンバーで、湖北省*****工程指揮部が設立、同プロジェクトがスタートされた。

1990年5月、同プロジェクトの建設が着工。1991年12月、湖北省****廠工程指揮部をもとにして、当該会社は湖北省安華市工商行政管理局で正式に登録設立。資本金は3億元。同プロジェクトの建設のため、湖北省、安華市の財政機関、および湖北省建設投資公司などの部門は国家発展計画委員会の指示により、合計2.4億元を調達したと同時に、企業債券8,000万元の公開発行を行った。

1992年7月、当該会社は正式に操業開始。想定年間生産能力は3万トン、乾式プロセスが取り入れられる。

【発展過程】

| | |
|----------|--|
| 1991年12月 | 当該会社が設立。 |
| 1992年7月 | 第一本目の生産ラインは操業開始。 |
| 1998年 | 第二期プロジェクトの建設がスタート。 |
| 2000年3月 | 第二期プロジェクトの一部建設は完成、年間生産能力は4万トンになる。 |
| 2000年6月 | ISO9002品質システムの認証を取得。 |
| 2001年3月 | 第一本目の生産ラインを改造し、生産能力は20%向上。 |
| 2001年6月 | 安華**服装有限公司の15%の株式を買収。 |
| 2001年10月 | 債務の株式転換は成功に行われた。中国華融資産管理公司は中国工商銀行から買収した全ての債権を株式に転換させ、当該会社の株主となり、その経営管理に参与し始めた。同時に、中国華融資産管理公司は20%の株を中国**紡績進出口会社に譲渡した。 |
| 2002年 | 当該会社の製品はヨーロッパで開催されたエキスポにおいて**賞に入賞した。 |

【組織機構】

当該会社のリーダーグループは合計6人からなる。総経理、総エンジニア、党委員会書記、労働組合主席各1人のほか、副総経理2人がある。生産経営の方策決定は総経理、副総経理と総エンジニアに担当される。

そのほか、当該会社は七つの処・室、六つの作業現場、三つの会社（仕入会社、販売会社、総務会社。3社は独立採算を行うが、法人資格を持っていない）があり、職能部門の設置は簡素化されている。社員総数約900人のうち、管理者は100人、技術者は140人。管理者と技術者の90%以上は短大卒以上の学歴、作業員の95%以上は高校卒以上の学歴を持っている。人員の全体的質は比較的

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

高い。香港****有限公司と共同で設立した合弁企業の安華瑞楊毛毯有限公司は主に毛布の生産を取扱う。

2002 年末、当該会社は日本三菱****株式会社と合弁して、安華三菱****紡績有限公司を設立した。現在、同社の基礎建設がすでに完成し、検査されている。検査に合格後、設備の据付けが開始する予定である。

【業務の現状】

当該会社は紡績原料メーカーで、主にアクリル繊維製品の生産を行う。

当該会社は米国 XXXX 社の技術 DMF を溶剤とする有機ドライプロセスを採用している。同プロセスを取り入れ、アクリル繊維の生産を行っている国内企業は、遼寧撫順、山東徑鶯、湖北安華、浙江寧波、広東茂名に分布されている 5 社がある。

当該会社は現在、重合生産ライン 2 本と紡糸ライン 8 本があり、アクリル繊維の年間生産能力は 4 万トンである。2002 年の実際生産高は 3.6 万トン。製品のブランドは「XXX」で、ウール製品シリーズとコットン製品シリーズの 2 種類がある。毛製品の繊維は全製品の 80% 以上を占める。製品の直径規格は 1.5 ~ 10dtex、長さは 38 ~ 133 ミリ。同業企業と比べ、当該会社の製品は中等レベルとなる。

生産の主な原材料はアクリルニトリル、アクリル酸メチルなど化学製品である。アクリルニトリルは最も重要な生産原料で、全部アメリカなどから輸入される。そのほかの原料は北京、上海など国内各地から仕入れられる。国内、および海外よりの仕入分の支払はアット・サイトと短期をとるが、輸入分は安華地元の輸出入会社に代行してもらう。

当該会社のここ数年の業績から見ると、業界の不景気と国家政策の問題で、連年の赤字が出たが、2002 年に株式転換した後、会社の経営は全体的に良くなり、販売量が増加し、赤字が大幅に減少した。

当該会社の傘下子会社の安華****有限公司は毛布の生産を扱う。香港****有限公司の販売ルートを利用し、ドイツ、アメリカなどへ輸出する。年間輸出高は 250 万米ドルに達している。

当該会社の製品は全部国内で販売される。湖北、江蘇、浙江 3 省は主な販売地区で、当該会社販売総額 70%以上を占める。当該会社の製品は国内市場で 7%のシェアを持ち、湖北省市場で 30%以上のシェアを持っている。販売方式は直販を主とし、紡績工場などは主な顧客となり、紡績工場向けの販売高は販売総額の 90%以上をしめる。その他約 10%は各地の代理商を通し販売されている。

【発展計画】

- 1、2003 年、安華****紡績有限公司は操業開始後、当該会社のアクリル繊維の年間産高は 5 万トンになる。当該会社は製品ラインの調整、製品品質の向上に力を入れ、優良品率を現在の 40%から 90%に達成させると目指している。
- 2、武漢紡績学院と提携し、高附加価値のアクリル製品を開発する。現在、主に「湿式超高速」生産法を研究・開発している。
- 3、生産高と販売収益の増加、赤字低減、黒字化が目指されている。
- 4、個別化繊維という新製品の開発が開始されたが、2003 年を目処に、個別化繊維の定着と生産拡大が計画されている。
- 5、海外市場を開拓し、最初は日本と韓国を中心とする。
- 6、中国華融資産管理公司是所持する当該会社の株を海外で競売する予定である。そうすると、当該会社の資産が再評価され、資本金も結果によって変動（増加）される。

【競争力分析】

< 優位点 >

- 1、当該会社の社歴が長く、製品は成熟されている。また、新製品の開発力が強いため、市場需要に応じ、生産構成の調整ができる。
- 2、得意先が比較的安定している。現在、全国各地にある得意先は約 100 社、そのうちの 80%は固定得意先である。当該会社の製品品質と価格は得意先

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

- に認可されている。
- 3、人員の全体的質は比較的高く、管理スタッフは協力し合い、社員も団結している。安華地区の国有工業企業の中、当該会社の人員の質は上位となる。
 - 4、自社専用の運輸埠頭と鉄道線路を持っているため、原料供給と製品販売の効率は割合と高い。
 - 5、安華三菱**紡織有限公司との提携により、海外市場開拓能力は大いに高められている。

< 劣勢点 >

- 1、中国のアクリル生産コストは海外メーカーより高い。同業界は国家貿易政策と国際市場価格の変化に左右され、当該会社も例外ではない。政府はアクリル輸入割当の制限を廃止すると、国内のアクリル生産企業は大きな打撃を受けることが予想される。
- 2、歴史的な原因で、当該会社の建設投資の多くは銀行貸付に頼っているため、発足されてから、借金の負担を抱えている当該会社は、毎年多額の財務費用の支払が余儀なくされている。これにより、流動資金が不足、仕入先に支払うべき代金も支払えなく、深刻な赤字状態に陥り、今後の発展に大いに影響している。「債権の株式転換」の実施で、当該会社の経営状況は良くなっている。
- 3、専門家によると、アクリル生産企業の適当な年間生産能力はおよそ6万トンである。当該会社はまだ一定の格差があり、生産規模の拡大必要があるが、自社による資金調達が困難で、財政部門の割当金と銀行融資の取得も容易なことではない。
- 4、当該会社の製品は主に中等レベルの製品で、国内市場で同類製品の競争は非常に激しい。

【業界分析】

当該会社は紡績原料の生産企業である。

中国でアクリル繊維業界の主な生産企業は約10社ある。当該会社の総合指数

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。

は第 6 位である。上海***廠は最大規模となる。当該会社と同様なプロセスを採用している企業では、***化工廠は最大規模となる。今現在、中国のアクリル繊維年間需要量は 70～80 万トンであるが、国内企業の生産総量は 40～50 万トンだけである。不足分は全部海外輸入に頼っている。政府はアクリル繊維の輸入に対し、厳格な割当制限を実施している。

国内市場と海外市場のアクリル製品の価格は格差あるため、数年前、密輸問題は深刻となった。これにより、国内アクリル市場の原料の暴騰、製品売価の低下がもたらされた。政府機構の厳格な取締りの元で、密輸活動は少なくなり、1999 年末からアクリルの価格は上昇しはじまった。

中国のアクリル業界の主な問題点とは、

- 1、業界内の競争は規範化されていない。
- 2、製品ラインは調整の必要がある。国内のアクリル製品の多数は一般品種で、個別化繊維の比率は低い。
- 3、業界の発展は速いが、規模的な生産に達している企業は少ない。
- 4、製品の品種は単一で、競争力は弱い。

情報によると、2002 年末、中国国内市場のアクリル売価は約 * * 000 元/トンである。

【今後の展望】

業界の状況から見れば、アクリル製品の生産は原料供給と海外市場の影響を受けている。国内のアクリル業界では、高価な生産コスト、これまでの重複建設、投資の無計画さと不合理により、国内市場の混乱、企業の収益力低下、多数企業の赤字がもたらされた。

WTO 加盟後、政府による貿易障壁の設置可能性が更に小さくなり、国際貿易は更に自由性がある。中国のアクリル生産企業にとっては、輸入障壁の減少に伴う海外製品の進出により、一部市場は輸入品に占有されてしまう可能性があるが、一方、輸出制限の減少により、毛糸、毛布などアクリル製品の輸出は大幅に増加され、アクリルの市場容量は急速に拡大されることが予想できる。

全体的に見れば、同業界の状況は好転できると見られる。

当該会社の人員、設備、経営状況は比較的よい。また、国際規格 ISO9002 品質システムの認証を取得している。「債権の株式転換」の実施が完成後、当該会社の全体的状況はよい方向へ発展している。そして、日本*****株式会社と合併後、当該会社は既存の生産資源を十分に利用し、生産規模を拡張し、生産コストを削減することができる。その上、海外市場進出のチャンスの拡大によって、外向型貿易を発展させ、地域経営リスクを分散し、自社の総合実力を強めることができる。

世界情勢からみれば、第 2 次湾岸戦争は西アジア地区の激動を引き起こし、2002 年末から石油製品価格が上昇し続けている。その影響を受け、化学原材料の仕入価格も上昇した。コストが高いことは当該会社の収益に影響する主要因となっているため、コストの削減は当該会社にとって最優先の課題である。

【対外関係】

- 1、 当該会社の総合指数は安華市工業企業の上位 3 位で、政府部門の評判がよい。2001 年、当該会社の発展のため、安華市経済貿易委員会は当該会社に貸付金 500 万元を提供した。
- 2、 当該会社の「債権の株式転換」の実施と当該会社の発展を支援するため、安華市政府は、「債権の株式転換後の当該会社企業所得税の全額免除と、増値税の地方保留分の半額免除」を決定したと同時に、 国家・省・市の企業育成政策を優先的に当該会社に適用させること、 政府部門は当該会社の一時帰休者の再就業を優先に配慮すること、などが決定された。
- 3、 中国華融資産管理公司是、当該会社の現状を評価し、「債権の株式転換」後、当該会社の全体的状況は良い方向に向かっているという。
- 4、 当該会社の製品品質は得意先から評価されている。当該会社の信用がよいとして、得意先は当該会社との協力に満足している。

【その他】

「債権の株式転換」とは、中国政府は金融メカニズムの改革で取り入れた重要な措置の一環である。つまり、債権を株権に転換させること。企業負担の低減と企業発展の促進の目的で、国有企業が商業銀行から借入れた貸付金を、国有企業の株権に転換し、株権が国有資産管理会社の所有とすること。

国家経済貿易委員会の推薦により、再建の株式転換の実施が決定された第一陣の国有企業は 601 社あるが、当該会社はその中の 1 社である。2000 年 3 月、当該会社と中国****管理会社は 8.88 億元の債権の株式転換について合意に達成した。銀行貸付金の利子徴収中止は 2000 年 4 月 1 日である。

中国****管理会社の規定によると、債権の株式転換を実施する債権の金額は 5 億元以上となる企業は、中国***資産管理会社と地元機構（中国****管理会社武漢事務所）との共同管理になるため、同プロジェクトの進展がやや遅く、2001 年 10 月になってようやく完了したのである。

信用評価

| 信用評価および説明 | | | |
|-----------|-----------------|----------------------------------|------|
| 項目 | | 点数 | 実際得点 |
| 管理分析 | 企業組織 | 10点 | 10 |
| | 経営者能力 | 10点 | 6 |
| | 設備と人員 | 10点 | 6.5 |
| | 業績と現況 | 15点 | 10.5 |
| 財務分析 | 債務返済力 | 15点 | 6.5 |
| | 企業経営力 | 10点 | 10 |
| | 企業収益性 | 10点 | 2 |
| 経済分析 | 現状分析 | 15点 | 11 |
| | 将来性 | 5点 | 3 |
| その他の要素 | 加減点数(+/-) | - 10 ~ + 10 | 0 |
| 合計 | | | 65.5 |
| 信用レベル | 点数 | 内容説明 | |
| AA | 90点以上 | 企業信用優秀。業務取引には問題ない。 | |
| A | 80 - 90点 | 企業信用優。現在取引には問題ない。 | |
| BB | 70 - 79点 | 企業信用良。現在取引には問題ない。 | |
| B | 60 - 69点 | 企業信用可。保証条件を確認し業務取引を進める。 | |
| B | 50 - 59点 | 企業信用普通。大型取引は慎重に進める。 | |
| C | 40 - 49点 | 企業信用不可。取引は要注意。 | |
| D | 40点以下 | 企業信用不良。取引は避ける。 | |
| NR | 無し | 設立1年未満、正常経営状態に無い、資料不全、法人会社ではないなど | |

弊社は同報告書中に記入した情報の完全性及び正確性について法的責任を負いません。また、情報の処理、収集及び転送過程に生じたずれによる損失についても責任を負いません。同報告書は依頼者のみに提供し、あらゆる形であらゆる第三者へ報告書の内容を漏洩することは禁止します。